

1116 第7回中医学セミナー

テーマ： 超高齢社会 2025 年問題に挑む

～ 醒脳開竅法の役割と可能性 ～

後藤学園中医学研究所 所長

兵頭 明

【抄録】

皆さんは 2025 年問題についてご存知でしょうか。2025 年は、団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者になる年です。日本は今までは急速な高齢化が問題でした。しかし 25 年以降は 2200 万人、4 人に 1 人が 75 歳以上という超高齢社会が到来します。これまで国を支えてきた団塊の世代が給付を受ける側に回るため、医療・介護・福祉サービスへの需要が高まり、社会保障財政のバランスが崩れる、とも心配されています。

ところで 2008 年版の人口動態統計によると、2008 年に脳血管障害の患者数が約 137 万人であったのが、東京オリンピックが開催される 2020 年には約 287 万人になるとの報告がなされています。2008 年のデータによると 65 歳以上の寝たきり者は約 32 万人とされ、寝たきりの約 40%、そして要介護者の約 25%は脳血管疾患が原因とされています。

ここまで紹介いたしますと、第 7 回中医学セミナーに参加されたすべての方々が、「醒脳開竅法の今後の役割と可能性」についてお気づきになられたことでしょう。今後は病院や鍼灸治療院だけでなく、在宅や高齢者入居施設での取り組みも今以上に重要になってまいります。このような社会的ニーズ、医療的ニーズ、そして患者さんおよびご家族のニーズに応えるためにも、しっかりと醒脳開竅法の考え方とスキルを修得していただきたいと思っております。